

3. Clinical Usefulness and the Role of Wearable Cardioverter Defibrillator (WCD)

岸原 淳 北里大学医学部循環器内科学

4. Impact of Early Defibrillation with an AED in Out-of-hospital Settings and Next Steps to Improve Outcomes More

石見 拓 京都大学環境安全保健機構健康管理部門/附属健康科学センター

このシンポジウムでは致死的心室性不整脈に使用される除細動デバイスを取り上げる。Burke 先生の皮下植込み型除細動器 (S-ICD) についての Key Note Lecture に続き、経験豊富な日本の3 演者から経静脈植込み型除細動器 (TV-ICD)、着用型自動除細動器 (WCD)、自動体外式除細動器 (AED) について発表いただく。実臨床において、たとえば急性心筋梗塞で心室細動をきたした患者が AED で救命され、WCD で経過観察されたあと TV-ICD または S-ICD 植込みを受けるといった状況を経験する。この場合、AED は蘇生救命、WCD は ICD 適応判断までの間の生命担保、そして TV-ICD および S-ICD は心臓突然死予防と、それぞれ違う役割を担うことになる。少しでも多くの患者を心臓突然死から守るため我々は何をすべから、これらの除細動デバイスを最大限有効活用するための議論の場としたい。

第2会場 16:50~18:20**シンポジウム4****MD-MPジョイントシンポジウム:
心不全治療におけるチーム医療—CRTやVAD導入の位置づけ—**

座長 中里 祐二 順天堂大学医学部附属浦安病院循環器内科
小林 義典 東海大学医学部附属八王子病院循環器内科

演者

1. EP 専門医の立場から

佐々木 真吾 弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座

2. 心不全管理の立場から

成毛 崇 北里大学医学部循環器内科学

3. 患者サポートの立場から

碓井 健 北里大学病院看護部心臓血管センター HCU

4. ガイドラインの立場から

野田 崇 国立循環器病研究センター心臓血管内科

難治性重症心不全の治療には、有効性が確立している薬物治療に加え、非薬物治療である CRT も適応とされている。しかし、約 30%に Non-responder が存在するなど CRT の有効性にも限界がみられ、重度に進行した場合には補助人工心臓や心移植など特別な治療の導入、さらに終末期緩和ケアの適応も考慮しなければならない。現在、これら重症心不全例に対するマネジメントには医師による心不全治療のみならず、コメディカルスタッフによる精神的支援も含めた包括的なチーム医療が必須となっている。このシンポジウムでは、CRT や VAD の導入にあたり、心不全管理、不整脈、患者支援スタッフ、そして診療ガイドラインの 4 つの立場のエキスパートによる講演と討論を通して、これら非薬物治療の位置づけを明らかにしていきたい。